

# 技9

## 「緩効性肥料」を使ったカラマツコンテナ苗育成の試み

紋別地区種苗協議会 参事 遠藤 貞

### 研究の背景・目的

コンテナ苗は生長が早い、活着が良い、植付簡単工程アップ、植栽時期の拡大などの利点により植栽されてきました。

しかしながら、各研究機関の調査研究によりますと、初期生長は思った程の成績が期待できないとの報告が定説となりつつあります。何故なのでしょう。

今回、山出しするコンテナ苗根鉢に肥料養分が少ない徒長気味の苗ではないかと考え「緩効性肥料」を使ったコンテナ苗を育苗しました。

根鉢に十分肥料養分を蓄えたコンテナ苗を植栽することで、初期成長を期待出来るものと考えます。

生長が良ければ下刈り回数を減らすことも可能です。伐採・地拵・植付け作業が終われば更新・下刈完了も夢ではありません。その可能性を求めて取り組みました。

### 研究の内容・成果

コンテナ苗の普及拡大に向けては、幾多かの問題点があります。中でも価格が高い、初期生長が思わしくないなどがあげられます。

苗木生産者は育苗技術調査研究を行い、無駄を省き作業効率の向上を図っております。

今回取り組みました試験項目・成果は下記のとおりです。

#### □ 培地別生長調べ

ココユーキ培地>赤玉土混合培地  
培地の特定は必要ない。

#### □ 施肥量別生長調べ

施肥量12g>10g、10gでも可能

#### □ コンテナ容器別生長調べ

容器の特徴に対応した養苗管理を行うことで殆ど差異は無い。

#### □ 移植幼苗の大きさ別生長調べ

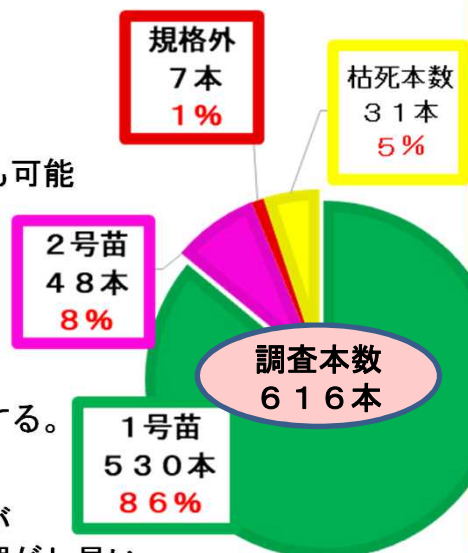
移植幼苗小サイズで1号規格に達する。

#### □ 育苗期間短縮の可能性

生分解性コンテナ容器は根鉢成形が早く夏期植栽用出荷が可。育苗管理がし易い。  
出荷準備が容易。根鉢の傷みが無い。



カラマツコンテナ苗



生分解性カラマツコンテナ苗

### 今後の課題

#### 植栽後の持続的生長への期待

植栽後の成長調査を行い、タイプ別施肥量の調整等を行い長期肥培効果タイプの増減を考えることにより、苗木生産者が同じようなコンテナ苗を生産できることとなります。現在は緩効性肥料を使ったトドマツコンテナ苗を育苗し調査研究中です。持続生長するコンテナ苗育苗に取り組んでまいります。

### 培地1㎡当たり施肥量

| タイプ  | 施肥量<br>10g | 施肥量<br>12g |
|------|------------|------------|
| 70日  | 2グラム       | 2グラム       |
| 100日 | 2グラム       | 3グラム       |
| 180日 | 2グラム       | 3グラム       |
| 360日 | 4グラム       | 4グラム       |
| 施肥量計 | 10グラム      | 12グラム      |